



令和7年12月15日(月)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
4年学年便り 冬休み・1月号

「高学年へと」大きくはばたくための準備

後期になってからの約3ヶ月を過ごし、あっという間に2025年も終わろうとしています。11月には、どのクラスも全校に向けた「つどい」があり、あらためて自分の学級と向き合う時間となったことだと思います。11月20日には委員会見学があり、来年度から始まる「委員会活動」の様子を自分たちの目で見てきました。「実際に見て、○○委員会に入ってみたくなった」「○○委員会に入って、こんなことを頑張りたい」「まだ迷っているけど、○○委員会にチャレンジしてみたい」など、委員会見学を終え、それぞれに感じるものがあったようです。「委員長ってどうやって決めるんですか?」「○○委員会は、こういう活動をしたらもっと学校をよくしていけるんじゃないかな」など、さらに先のことまでを見通し、より具体的なイメージをもっている姿もあり、とても頼もしく感じます。この委員会見学という機会が、はばたきの子どもたちにとって、未来の自分を思い描くきっかけとなったのではないでしょうか。

冬休みが明けると、4年生として過ごす期間は約3ヶ月しかありません。いよいよはばたきは、この附属小の高学年の仲間入りです。これまで、時にはぶつかりながらも、自分と仲間の思いを大切にして力強く歩んできたはばたき。来年度はきっと、この附属小を支え、全校を引っ張っていく立場として、最高学年である「きぼう」とともに力強く歩みを進めていくことでしょう。冬休み明けからの3ヶ月は、中学年の締めくくりという期間でもありながら、自分たちが附属小の高学年となるための大切な準備の期間でもあります。学年名である「はばたき」。「世界にはばたく」「未来へはばたく」など、一般的にその言葉は、「○○に(へ)」という方向がセットとなって表現されることが多くあります。はばたきの子ども(たち)はいま、何に向かってはばたこうとしているのでしょうか。自分で思い描いているものもあれば、学年として向かっていきたいものもきっとあるはずです。自分(たち)の中でイメージをより明確にもつことで、推進力高く、大きくはばたいていくことができるはずです。この冬休み、ときには自分の羽根を休めつつ、自分(たち)のはばたいていきたい方向をイメージする期間となることを願っています。そして冬休み明け、はばたき一人ひとりの思いを大切にしながら、学級や学年でも思いを共有し、ともに「高学年へと」大きくはばたくための準備をしていきます。

2026年、はばたきの一人ひとりが未来に対する希望を胸に抱き、みんなで輝いていく年にできることを心から願い、4年部職員一同で支えていく思いでおります。本年も本校の教育活動に多大なご理解・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

